

令和6年度 高等学校入学者選抜審議会 第1回専門委員会 記録

令和6年7月5日(金) 14:00~16:00
県庁9階 第一会議室

<審議会専門委員>

熊谷 龍一委員、平吹 淳委員、菊池 晃子委員、吉田 尚美委員、河本 和文委員、佐藤 彰彦委員、
中山 治彦委員 (欠席:佐々木 久晴委員)

<事務局>

菊田 英孝高校教育課長、西城 光洋仙台市教育局学校教育部高校教育課長

事務局	(資料の確認) (公開の確認)
	(開会)
事務局	(委員の紹介)
高校教育課長	(開会あいさつ)
事務局	(事務局関係出席者紹介)
	(委員長 司会進行開始)
委員長	審議1「高校入試におけるウェブ出願について」、事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	これまで本委員会で審議していた内容及びその対応について説明があり、これが第1回入学者選抜審議会への報告となる。ウェブ出願システムの導入を進めることについて、御質問や御意見はいかがか。
各委員	(質問・意見なし)
委員長	それでは、この資料については細かい修正を事務局でした後、入学者選抜審議会へ報告とする。
委員長	次に審議2「調査書の記載事項について」事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	こちら第1回入学者選抜審議会の報告となる。調査書の構成項目については、欠席の状況欄は削除するということと、部活動の活動状況等の記載については、現行の様式の記載事項を維持するという方向となっているが、この点について御質問や御意見はいかがか。
河本委員	私立高校では、公立高校の様式を用いて調査書を作成している。県で作ったものを勝手に使っているだけと言われるかもしれないが、各高校が別の様式の調査書を用意して、中学校に作成を依頼することになれば、中学校側の負担が増える。私立高校もその負担を考え、できるだけ形式を統一する流れで、公立高校の調査書の形式をそのまま使用して対応した経緯がある。 コロナ禍以降、欠席日数については、扱い方が異なるケースがあるが、推薦入試で、欠席日数を出願の要件としている高校がいくつか残っている。調査書に欠席欄がなくなれば、別な形式で、欠席日数を各中学校から提出いただくことになる。この方向性を決定する前に、宮城県の公立私立協議会で話題に出していただき、検討してから、欄を削除するかどうかを決定していただきたい。
委員長	事務局の方ではどうか。
事務局	そちらについても調整を図りながら、7月25日の審議会に向けて、資料を準備していきたい。
委員長	その他、御意見、御質問はいかがか。
佐藤委員	入試に必要な情報と入学後の配慮に必要な情報というのは別だと考えているので、入試に必要なもの限定した形の方が誤解を生まないで済むという考え方に賛

	成である。入試においては、配慮申請等があるため、必要な情報は入ってくると考えるがどうか。 別件ではあるが、今後、調査書が電子化された場合、高校で調査書を印刷して処理したのでは、今までと同様のミスが想定され、労力も変わらない。せっかくデータで扱えるのであれば、そのデータを高校側でも活用できる形にならないかなと思う。
委員長	1点目は要検討。2点目について、事務局はどうか。
事務局	どこにリスクがあるか検討したい。
佐藤委員	入学してからの配慮に必要な情報だが、どの高校においても3月の末に、クラス編成、授業の配置などを考えるため、入試の時に必要なものは入試前に、次年度に向かって配慮が必要なものについては、3月の下旬をめどに、2段階での情報提供があれば良い。
委員長	その他、御意見、御質問はいかがか。
河本委員	特色選抜を実施しているが、部活動の情報収集をするのは難しいと聞いている。また、調査書の内容がどのように活用されているか不明である。中学校側が分かる調査書の様式を検討してはどうか。中学校は、どこまで記入したらいいのかなど悩みながら調査を作成している部分がある。調査書の変更に伴って、特色選抜において、より有効に活用できるような様式、中学校が記入しやすい様式を検討する必要があると考える。
委員長	事務局の方ではいかがか。
事務局	記載例などを示し、どの欄にどのような内容を記載するのか、中学校に伝えながら、より良い調査書に向けて、詰めてまいりたい。
委員長	次に審議3「入試制度における例外的な選抜のあり方について」事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	御意見、御質問はいかがか。
河本委員	非常に興味関心が高い。私立高校もこれからの少子化を見据えて、幅広く生徒を集めていきたいと考えている。通信制の併設ということをすでに始めている学校もある。通信制について一つ確認したい。全日制課程と通信制を併用する際に、文科省において制約があるのではないか。文科省の方で、許可を得ているのだとか、推奨されているのだとかという情報も併せて提示していただきたい。
事務局	美田園高校の一部の科目を希望すれば併修が可能。アイデアルスクールで開設している科目以外について、併修することは認められている。
河本委員	この資料においては、その部分が見えないため、私立高校などが誤認する可能性がある。これから新たに通信制課程を作ろうとしている私立高校もあるので、設置科目以外の科目については併修を認めるということがわかるように資料を修正いただきたい。
事務局	指摘感謝する。資料は修正する。
委員長	御意見、御質問はいかがか。
佐藤委員	非常に素晴らしい理念を持った学校である。このアイデアルスクールが、不登校対策なのか、個別のニーズに応じた多様な学びを支援する学校なのかによって、それに応じた指導が変わってくる。もし個々に応じた指導を欲する多様な生徒を対象にしているのであれば、難関大を目指し、予備校の授業を受けながら勉強するという前向きな生徒がいる一方で、ほとんど基礎学力が定着していない生徒もいる。そのような生徒が混在している中で、多様な生徒たちをどのように教育していくのかを、これから考えていく必要がある。入試について考えると、今までの入試制度の枠組みでは難しいという印象を持っている。紹介のあった全国の例にあるように、複数の枠組みでの実施、現行の枠組みの柔軟な活用などが必要になる。先進的な例となるので、今現在、多様な生徒に対応している学校でも応用することも視野に入れて、進めていければ素晴らしい。
事務局	御意見感謝する。アイデアルスクールについては、多様なニーズに対応するもの

	<p>であり、必ずしも学校に通えない生徒だけに対応した学校ではない。25 ページの求める生徒像のように、様々な生徒を想定している。26 ページの多様な教科・科目の設置について、国公立大学受験にも対応した科目を設置する一方で、学校に登校していない期間があり、学び直しが必要だという生徒に対しても学び直しの科目を設置する。簡単なことではないが、幅広い生徒の学習ニーズに対応する学校を目指している。入試についても、単純な学力というよりは、学校生活で意欲を持って頑張りたいという生徒が入学できるような入試制度にできないかなと事務局としては考えている。</p>
委員長	<p>その他、御意見、御質問はいかがか。</p>
菊池委員	<p>中学校の立場から話をさせていただく。非常に魅力的な学校だと感じる。まさに中学校には多様な子供が在籍しており、日々、個に応じた指導の必要性を感じている。このような学校ができれば、中学校の進路指導も画一的ではない指導ができる。現在、私たちが多様な子供たちに対する指導で課題と感じているのは、例えば800 人在籍していれば800 人分の学習内容を考え、指導する教員数が必要となる。そのため、チューター制の導入は魅力的である。しかし、今後、学校づくりをする上で、チューターの資質能力を高める必要もある。それは子供達にとってはより喜ばしいことである。入試制度についても、早い時期から教えていただければ、私たちの指導にも生かせる。非常に期待している。</p>
委員長	<p>ただ今のチューター制のことなどについて、何か決まっていることはあるか。</p>
事務局	<p>御意見感謝する。できるだけきめ細かい対応をしたいと考えており、単位制を導入する学校なので、学年制の学校よりは、教員数を多く配置できる。教員のチューター1 人当たり、17、8 人ぐらいの生徒を担当し、時間割作成のサポートや学校生活の中での悩みの相談などに細かく対応したいと考えている。教員の研修については、大学と連携して実施し、教員の育成に取り組んでいく予定である。</p>
委員長	<p>その他、御意見、御質問はいかがか。</p>
平吹委員	<p>保護者の意見として話をさせていただく。本当に魅力ある学校だと思う。是非とも成功させていただき、仙台だけでなく、各地域にもこのような学校ができれば、子供たちがいろいろな選択ができると思う。頑張っていたきたい。</p>
事務局	<p>仙台圏でこの学校を開設することとなったが、次期県立高校将来構想にて、今後十年間の高校のあり方を示す構想の策定を進めている。その中でも、アイデアルスクールを他の地域にも設置するべきかどうかは、有識者会議でも意見があり、検討している。</p>
河本委員	<p>個別最適な学びを実現させる学校として、非常に魅力が大きい。実際のところ、本人たちが満足できる高校生活が送れたらそれで終わりなのかという部分がうまく成立していかないと、このような学校は長続きしないという感触を持っている。本校にベガルタユースに所属している子が入学している。あえて東京から本校に進学した理由は、ベガルタユースで好きなサッカーをやりながら、本校で一生涯懸命勉強したいというのは当然だが、地元からでは、推薦枠が少なくてなかなか入れない著名な大学に、こちらからなら、空きがあるため推薦で行けるという利点がある。実際この学校をつくった時に、例えばいろいろなスポーツ競技をしている生徒にとっては、大学や企業で競技が続けられるような道筋があるかどうか、あるいは進学を考えている生徒にとっては推薦の枠があるか、そういう出口がある程度保証されることをセットにしてスタートしなければならない。自分たちが満足いくような学びを終えたが、後は自分たちで将来のことを開拓しなさいということでは、期待に沿わないのではないか。将来の進路設計もセットにして考えなければならない。</p>
委員長	<p>今の出口の部分について、御意見はいかがか。</p>
事務局	<p>例えば、就職希望の生徒については、地域と連携してインターンシップを実施し、就職する上での訓練、社会に属する意識を養う学びを実施する予定である。大学を含めた進路については、大学の総合型選抜を目指した指導などは可能である。御意見を踏まえ検討する。</p>
委員長	<p>様々な御質問・御意見に感謝する。前回までの委員会では、現行入試制度における例外的な選抜のあり方という大きな枠で調査研究を行ってきた。今回、新たにアイ</p>

	<p>デアルスクールが設置されることが明らかになった。今後、このアイデアルスクールの選抜のあり方について、焦点を絞った検討も必要になってくる。</p> <p>引き続き事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>ただ今の説明のとおり、アイデアルスクールの入試について検討が必要との方向性が示されたが、本委員会での検討の進め方について御意見等はいかがか。</p> <p>では、私から一点、意見を述べる。前回の委員会でもあったが、入試を決める際には、そもそも、その学校はどのようなカリキュラムで、どのような人材を育てていくかなど、具体的な中身を見据えながらでない、本末転倒な形になる。本委員会での検討の進め方と、カリキュラムなどの中身の検討の進め方について、どのような進め方をするのか。予定はきまっているか。</p>
高校教育課長	<p>入試制度の調査研究については、現行制度における例外的な選択のあり方という形で、この専門委員会に委ねられている。アイデアルスクールについて公表となり、現行の入試制度では対応できない部分もあるのでないかという御意見もあることから、まずは前出しで、専門委員の方々にも御意見を伺った。これを審議会の方でも取り上げて、審議会でも、焦点を絞った審議が必要だと判断されれば、引き続き専門委員会で、入試制度をいかにすべきか検討お願いしたい。開校までのスケジュールと審議会の開催予定を重ね合わせてみると、20 ページに示したようなスケジュールになる。中学生への周知も必要となることから、令和7年度の夏頃には大枠については発表したい。そこに向けて、審議を急がなければならない。今回はアイデアルスクールの概要を、まず皆さんに知っていただき、御意見を頂戴した。</p>
河本委員	<p>非常に大きな風呂敷を広げて募集する形になるので、当然、現行の制度の枠の中に入れるということは難しい。アメリカなどの外国の学校のように、本人の意向を尊重して入学させるという方向で実施するとのことだが、美田園高校において、現行の高校入試とは異なる選抜を行っており、三年あるいは四年の課程で卒業する生徒の割合は低いと記憶している。現行の入試制度の枠の中に入れるのか、あるいはもう全く切り離して、異なる入試制度で選抜を行うのかを決めてから、検討した方がよい。</p>
高校教育課長	<p>こちらとしても、まずは現行制度のままいくのか、それとも全く別に考えるのか、もしくは現行制度と合わせて、他の選抜を抱き合わせるのか、その方向性は様々あると認識をしている。その中で、どういう方向でまとめていくのか、広く御意見いただきながら検討していきたい。</p> <p>美田園高校では、基本的には学力検査がない面接のみの入試を行っている。例年、中学校から美田園高校に直接入学してくる生徒、約200人のうち、三年で卒業する生徒は、およそ6割である。その後、四年、五年と続けていく生徒もいるが、途中で進路変更をする生徒もいる。そういった意味で、入口と出口という部分をしっかり見据えながら、進めていくことが必要だと認識している。</p>
佐藤委員	<p>入試を考えたときに、多様な生徒を受け入れる学校なのであれば、極端な考え方をすると、誰でもいいですよということにもなりかねない。その際に何を尺度とするのが大事になる。現行の入試に倣って、例えば、学力点で決めるということになると、理念が崩れていくという気がする。</p> <p>もう一つは、多様な生徒を受け入れている学校は今現在にも県内にたくさんあり、その選抜も非常に苦労している。もし、このような先行例が出ればアイデアルスクールだけのものではなく、他の学校にも応用できるような形も視野に入れて検討してほしい。</p>
高校教育課長	<p>現行の入試制度については、今すぐに改正ということは想定していない。あくまでもこの新しい学校に対して、どういう選抜をすべきかの検討を進めていきたい。現行制度を改正して、新たな制度として導入をするという話ではないので、誤解のないよう願う。</p>
委員長	<p>アイデアルスクールの選抜のあり方については、示されたスケジュールに従って、検討を進めていく必要がある。本日、挙げられた意見を踏まえて、今後の検討の進め方について事務局で調整願う。</p>

	本日3つの審議事項について協議した。非常に参考となる御意見をたくさんいただいた。感謝する。委員の皆様からの御意見を活かし、事務局で調整等を願う。それでは、最後に事務局から連絡等はあるか。
事務局	(事務局より事務連絡)
委員長	それでは、本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しする。
事務局	(閉会)